日本私立看護系大学協会
Japan Society of Private Colleges and Universities of Nursing
JSPCUN
会報
2022　No.47

2021 年度事業活動報告

大学教育委員会

担当理事および委員
（○：委員長）

○片田　範子（関西医科大学）、佐藤　みつ子（了徳寺大学）
中嶋　恵美子（福岡大学）、波川　京子（川崎医療福祉大学）

1. 研修会の開催

〈研修会Ⅰ〉シミュレーション教育研修会

―看護の将来を見据えたシミュレーション教育の展望―

研修目的：アクティブな学びの看護教育手法としてのシミュレーション教育を学ぶ

開催日時：2021 年 10 月 3 日（日）10：00 ～ 15：30

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信及び後日動画配信

当日参加者：294 人

動画配信期間：2021 年 10 月 11 日～ 2022 年 1 月 11 日

視聴回数：814 回

【午前の部：講演】

講演 1：「カリキュラムを俯瞰してのシミュレーション教育の導入～ハードからソフトの充実に向けた全領域での取り組み～」

講師：阿部 幸恵 先生（東京医科大学 医学部看護学科 学科長・教授）

講演概要：今般のコロナ感染症拡大により、臨地実習で学ぶことに制限が生じ、臨地実習での学生の学びを代替する必要に迫られた。代替実習で臨地実習の目標を達成するために、どのような方法を選ぶか教員にデザインする力が求められる。カリキュラムの目指すディプロマ・ポリシー一つ一つに到達するために、各科目、各領域は、どのような教育手法を用いるのか検討しなければならない。その例を東京医科大学のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、カリキュラムツリーを示し、アクティブラーニングを主軸とした教育方法の実践について説明された。コロナ禍を経て、①従来型の教員主導の教育・臨地実習でのこれまでの教育の在り方に転換を求められた。②学生が自分で自主的・自律的に学ぶには、教員はどのような力を備えていなければならないかを考える。③シミュレーション教育は1つの手法で、その他、アクティブラーニングの様々な手法を身につけなければならないなどを考えさせられた。したがってこれからのシミュレーション教育は、何をそろえるかというハード面ではなく、教員の教育スキル・シナリオの充実・シミュレーションと臨地での学びをつなぐ指導など、全領域での対話を通してのソフト面の充実が求められる。

講演 2：「多様な看護実践の場につなぐシミュレーション教育の実践」

講師：藤野 ユリ子 先生（福岡女学院看護大学 看護学部看護学科 教授）

講演概要：多様な実践の場で活動する看護職に求められる教育として、シミュレーション教育は看護基礎教育と臨地の看護職とをつなぐ力になり得る。シミュレーション教育導入に向けた組織づくりを福岡女学院看護大学のシミュレーション教育センターの運営組織、構成委員会の各役割を例に紹介された。続けて、同大学のカリキュラムにおけるシミュレーション教育の位置づけ、学年進行におけるシミュレーション教育の活用をもとに、多様な場につなぐシミュレーション教育の実践が紹介された。シミュレーション導入後の学生の学び方の変化として、①実践方法を学生同士で考える②体験（失敗）から考える・気づく③現場をイメージする / 疑似体験する④学ぶ楽しさを感じる / 達成感が高いなどがあった。アフターコロナの看護教育では、多様な場で働く看護職育成のためにコロナ禍の教育の何を残し、何を戻すのか検討が必要であり、授業や実習終了時に、卒業時にどのような学生に成長して欲しいのかゴールの明確化が重要である。

【午後の部：事例紹介】

事例紹介 1：在宅看護学「シミュレーション教育の一例【訪問時の面接技術】演習」

講師：酒井 康江 先生（福岡女学院看護大学 看護学部看護学科 教授）

報告概要：シミュレーション教育の実践例として演習の目的・目標と関連させてシミュレーション教育での展開方法を具体的に説明された。シナリオデザインシートやアウトラインシート、ホワイトボードの具体的活用、役割シート、シミュレーションルームやディブリーフィングルーム設定などを示し、シミュレーション教育における教員のデザインする力を具体的に例示された。

事例紹介 2：小児看護学「小児看護領域における赤ちゃん先生導入」

講師：宮城 由美子 先生（福岡大学 医学部看護学科）

報告概要：赤ちゃん先生の導入で、学生が実際の乳幼児の在り様を体験し、子どもと母親との関わりを通して現実を実感でき、主体的な学習に発展させることができる。小児看護学の演習目標との関連で、赤ちゃん先生の実施方法と今後の課題について具体的に説明された。（中嶋恵美子）

〈研修会Ⅱ〉新任教員向けの研修会
「新人とともに成長する教員組織」

研修目的：看護基礎教育における新任教員の教育活動の現状から導き出される教員としての人間性、看護教員としてのあり方について討議し、教員組織への順応できることを目指す

開催日時：2022 年 1 月 29 日（土）10：00 ～ 15：30

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信及び後日動画配信

当日参加者：講演 70 人、グループワーク 32 人

動画配信期間：2022 年 2 月 9 日～ 5 月 9 日

視聴回数：450 回（4 月 4 日時点）

講演「禅に学ぶ人の育て方」

講師：松山 大耕 氏（妙心寺退蔵院 副住職）

【午前の部：講演】

講演概要：禅の人の育て方「（いわれたことはしないので）ロールモデルをみせること」「こころの目で観ること」「瞬時に動くこと」「働きが大事」「わざと教えない」 は、看護基礎教育にも大学組織の活性化にも役立つことと思いました。最後に「社会に出た後も尊敬できる先生の元で働くことは人生の宝になる。心の支えになる先生を見つけてほしい。」というお言葉があり、まさしく心に響く講演であった。

臨済宗中興の祖と言われている江戸時代中期の白隠禅師は、長野県飯山の正受老人の元で修行し、日本で最初に「健康」という言葉を使った。30 歳でうつ病と肺病に罹患した際、京都北白川の白幽子仙人から呼吸法を学びうつ病、肺病を克服した。江戸時代の医学書において心身ともに健康であることの必要性を説いた名僧である。

仏教の中で大事にしなければならない 3 つの学の要素は「聞思修」。聞とは教えや歴史を学ぶ座学。思とは自分で考えること。修とは実践である。禅の修行はこの逆の順番で学ぶ「修思聞」。とりあえずやってみて、やっていることの意味を考え、修行が終わってセオリーを学ぶ。僧が修行で身に着けた無駄のない所作は内面を輝かせ人を引き付け、信頼される。大学教育にも通じる禅の人の育て方を以下 5 点に示す。

1. 人は言われたことよりも、見て納得したことを優先して行う。
2. 「観る」学生のことをちゃんと見ている姿勢を示し、伝えることは学生のモチベーションをあげる。
3. 「瞬時に動く」すぐに動くことは人の心を捕まえる。
4. 「能力でなく働きが大事」能力があるかはどうでもよく「できる」と「やる」は別。「やる」を重視する。
5. 「わざと教えない」ただ厳しくするだけではなく、ちゃんとした方向に向かって修行しているかを確認し、チャンスと時間を与え人間の能力を引き出すのが禅の教育。

【午後の部：グループワーク】
テーマ「上司・同僚に対して望むこと」「自分のめざす組織人」について活発に意見交換、情報共有がなされた。（波川京子）

2. 委員会の開催

○第 1 回大学教育委員会
開催日：2021 年 6 月 3 日（木）17：40 ～ 18：30
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子（五十音順　敬称略）
議題：2021 年度事業計画について

○第 2 回大学教育委員会
開催日：2021 年 7 月 29 日（木）16：00 ～ 17：15
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：阿部幸恵、片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子（五十音順　敬称略）
議題：2021 年度特別事業「シミュレーション教育教材開発プロジェクト」と研修会について

○第 3 回大学教育委員会
開催日：2022 年 1 月 17 日（月）16：00 ～ 17：00
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子（五十音順　敬称略）
議題：1 月 29 日の研修会について
2022 年度事業計画について

○第 4 回大学教育委員会
開催日：2022 年 1 月 29 日（土）15：30 ～ 15：50
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子（五十音順　敬称略）
議題：2022 年度事業計画について

3. 2020 年度 COVID-19 に伴う看護学実習への影響調査

2020 年 10 月に日本看護系大学協議会と協働で行った調査の結果をホームページに掲載した。

4. 今後の課題

看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画が立てにくい状況にある。そのため事業活動計画を進めながら、あわせて情報収集し、変化を踏まえて長期計画へと発展させていきたい。本委員会の担当する事業である、大学における教育、教員の質の向上に関するものは多岐にわたり、対象とする教員の職位も新任者から管理者に至り、それぞれの対象者のニーズも多様である。今後本協会の会員校である私学の増加の継続を踏まえ、会員校のニーズを把握して事業を企画する必要がある。看護学教育の動向を見つつ、本委員会の次年度の事業活動計画を策定する。

2021 年度事業活動報告

研究活動委員会

担当理事および委員
（○：委員長）

○秋元　典子（甲南女子大学）、坂本　真理子（愛知医科大学）
島袋　香子（北里大学）、武田　祐子（慶應義塾大学）

（研究助成選考委員）
杵淵　恵美子（駒沢女子大学）、小長谷　百絵（上智大学）、小山　友里江（北里大学）、
佐々木　綾子（大阪医科薬科大学）、高田　由美（日本赤十字秋田看護大学）、
中岡　亜希子（神戸女子大学）、原　礼子（清泉女学院大学）、吉田　久美子（高崎健康福祉大学）

1. 研究助成事業

2021 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を 4 月 1 日～ 5 月 31 日に行い、7 月 11 日に選考委員会で選考した結果を第 2 回定例理事会（7 月 31 日）に提出し、看護学研究奨励賞 11 件、若手研究者研究助成 9 件、国際学会発表助成 3 件を採択することを決定した。8 月から助成金の交付を行った。（秋元委員長は理事会において指摘のあった若手研究者選考結果一覧の研究経費の妥当性の評点を修正し河口会長へ提出し、河口会長が最終確認した。）

2021 年度研究助成事業選考委員会の開催
日時：2021 年 7 月 11 日（日）10：00 ～ 12：00
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：理事（4 名）秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子（五十音順　敬称略）
選考委員（7 名）杵淵恵美子（駒沢女子大学）、小長谷百絵（上智大学）、小山友里江（北里大学）、佐々木綾子（大阪医科薬科大学）、高田由美（日本赤十字秋田看護大学）、中岡亜希子（神戸女子大学）、吉田久美子（高崎健康福祉大学）（五十音順　敬称略）
欠席者：選考委員（1 名）原礼子（清泉女学院大学）（敬称略）

2. 学術研究および学術研究体制に関する事業

〈第 1 回研究セミナー〉
・研究助成受給者（4 名）による研究成果発表
抄録およびスライドデータのホームページ配信：2021 年 9 月 18 日～ 20 日
視聴回数：109 回
・講演
テーマ：「リサーチクエスチョンから研究計画へ」
講師：坂下 玲子 氏（兵庫県立大学 看護学部 教授）
日時：2021 年 9 月 18 日（土）13：00 ～ 15：00
開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信および後日動画配信
プログラム：
13：00 ～ 13：10　開会挨拶・会長挨拶
13：10 ～ 14：40　講演：「リサーチクエスチョンから研究計画へ」
講師：坂下 玲子 氏
（兵庫県立大学 看護学部 教授）
14：40 ～ 14：55　質疑応答
14：55 ～ 15：00　閉会挨拶
講演の概要
講演の内容は、①看護研究の特徴、②リサーチクエスチョンの設定、③研究デザインの選択、④研究計画書の作成、の 4 つで構成され、研究計画を書くことは「幸せのストーリーを描くこと」というハッとするような、また強く記憶に残る用語を用いて説明されました。つまり、解決したい問い、しかもまだ誰も答えを出せていないが研究により明らかにできる問い（リサーチクエスチョン）を解くこと（研究目的）ができれば、このような幸せ（研究の意義）が待っている、という幸せのストーリーを描くことが研究計画書を作成することに等しい、という説得力あるご講演でした。
当日参加者：212 名
動画配信期間：2021 年 10 月 11 日～ 2022 年 1 月 11 日
視聴回数：518 回

〈第 2 回研究セミナー〉
・研究助成受給者（4 名）による研究成果発表
抄録およびスライドデータのホームページ配信：

2022 年 2 月 12 日～ 14 日
視聴回数：292 回

・講演「アクションリサーチ：人々とともに、人々のために」
講師：筒井 真優美 氏
（日本赤十字看護大学 名誉教授・客員教授）
（横浜市立大学 医学部看護学科 / 大学院 特別契約教授）

日時：2022 年 2 月 12 日（土）13：00 ～ 15：00
開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信および後日動画配信
プログラム：

13：00 ～ 13：10	開会挨拶・会長挨拶
13：10 ～ 14：40	講演:「アクションリサーチ:人々とともに、人々のために」 講師：筒井 真優美 氏 （日本赤十字看護大学 名誉教授・客員教授） （横浜市立大学 医学部看護学科 / 大学院 特別契約教授）
14：40 ～ 14：55	質疑応答
14：55 ～ 15：00	閉会挨拶

講演の概要

アクションリサーチとは、研究者が現場 / フィールドの人々とともに研究に参加する研究であり、現場 / フィールドの人たちとともに研究を進めていく「民主的な活動」でもあると同時に学問的成果のみならず社会の変化をもたらす研究であると定義されました。ただ、実施する上では、①改善する時期に達している問題が明らか、②現場 / フィールドが研究の実施に耐えうる、③現場 / フィールドの共同研究者が熱意を共有している、④研究経験豊かな研究者がいることが必須であると強調されました。具体的な研究事例、そこで起きた成果、起こりやすい困りごとと解決方法なども紹介されました。参加者からのタイムリーなご質問により内容がより深まっていき、理解しやすくなったご講演でした。

当日参加者：117 名
動画配信期間：2022 年 2 月 22 日～ 5 月 22 日
視聴回数：279 回（4 月 4 日時点）

〈委員会〉

○メール会議①
開催日：4 月 6 日（火）
議題：国際学会発表助成の助成金使途について

○メール会議②
開催日：5 月 13 日（木）
議題：2021 年 9 月第 1 回研究セミナーの開催方法について

○メール会議③
開催日：5 月 20 日（木）
議題：若手研究者研究助成対象研究について

○メール会議④
開催日：6 月 4 日（金）、6 月 28 日（月）
議題：研究助成事業選考委員会の理事分担について

○第 1 回研究活動委員会
開催日：7 月 16 日（金）12：00 ～ 13：00
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子（五十音順　敬称略）
議題：1. 研究助成事業における対象者の条件について
2. その他

○メール会議⑤
開催日：8 月 6 日（金）
議題：研究セミナーでの理事分担について

○第 2 回研究活動委員会
開催日：10 月 8 日（金）10：00 ～ 11：00
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子（五十音順　敬称略）
議題：研究助成事業に関する検討事項

○第 3 回研究活動委員会
開催日：1 月 19 日（水）13：00 ～ 14：20
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
出席者：秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子（五十音順　敬称略）
議題：1. 研究助成募集要項の修正について
2. 選考委員の交代について
3. 2/12 の研究セミナーについて
4. 2022 年度研究セミナーについて

3. 今後の課題

①会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進するために、日本私立看護系大学協会研究助成事業規程等の整備を行う。
②会員校の教職員が参加しやすい研究セミナー等の開催について検討する。

研究助成応募受付中

2022 年度研究助成事業　　応募締切り　5 月 31 日（消印有効）

一般社団法人日本私立看護系大学協会では、看護学研究者の育成とさらなる向上発展を奨励するため、研究助成事業を行っております。募集要項および応募書類は、本協会ホームページからダウンロードできます。1 会員校当たり各助成に 1 件応募可能です。ご応募をお待ちしています。

1．看護学研究奨励賞

（1）対象者：会員校の教員で、2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までに英文による原著論文などを、国際学術誌や学術団体誌・専門誌に公表し、看護学研究に貢献した者。ただし共同研究の場合、応募者は筆頭著者であることとします。
（2）採択件数：10 件程度
（3）表彰：賞状および副賞（10 万円）が授与されます。

2．若手研究者研究助成

（1）対象者:会員校の教員で、以下の要件を満たす者とします。ただし、他機関から同一論文テーマにより助成が決定している場合は対象とはなりません。
①応募時、満 45 歳以下の講師、助教及び研究者番号を有する助手。
②応募時から 2 年以上会員校に在籍する者（採択後 2 年間会員校に在籍し研究を全うできるようにするため）。
③研究指導者を有している。
④研究成果について本法人主催研究セミナーで報告できる。
（2）研究期間：採択日から 2024 年 3 月末日まで
（3）研究助成：1 件 50 万円を上限とする。残金が出た場合は返金すること。

3．国際学会発表助成

（1）対象者：会員校の教員で、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに開催される国際学会（国外で開催）に発表を行った者および発表予定者（演題登録が開始されていなくても発表予定であれば可、ポスター発表も可）。
（2）採択件数：5 件程度
（3）助成金：1 件 20 万円。残金が出た場合は返金すること。
学会発表の採択通知証または学会演題登録の写しなどを提出してください。採択通知証が応募時に手元にない場合は後日提出してください。

研究助成受賞・採択論文抄録

● 2021 年度国際学会発表助成 ●

（46 号に掲載予定だったが、コロナ禍の影響による学会の演題採択期間順延に伴う採択通知書発行遅延により本号に掲載）

COMPARISON OF THE DEPTH OF NEEDLE PENETRATION IN THE VEINS OF THE FOREARM USING ULTRASOUND VISUALIZATION TECHNOLOGY –BASIC RESEARCH–

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 招聘研究員／武庫川女子大学 看護学部：中島一成
公立学校共済組合 近畿中央病院 臨床検査部：奥永明子
兵庫県立大学 看護学部：河野考典
大阪大学大学院医学系研究科 招聘教授：川﨑富夫／大阪大学大学院医学系研究科 名誉教授：梅下浩司
大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻：上野高義

Background and Aims：The puncture depth and length are influenced by the anatomy, especially depth of forearm cutaneous venous vessels from the subcutaneous to internal venous levels and can be monitored by ultrasonic visualization during indwelling needle puncture. This study aimed to examine the forearm anatomy to help establish a safer and more reliable procedure that reduces the risk of puncture during placement of an unmodified peripheral venous catheter.

Methods：The study was performed in 17 healthy young adults, comprising men and women, by attaching a device that can modify the blood pressure to the upper limb. The blood pressure was set at 0-, 40-, 60-, 80-, 100-, and 120-mm Hg in six stages, and during each stage, after the pressure was measured using an ultrasonic device, the depth was changed from subcutaneous to internal venous levels in three types of forearm cutaneous veins (midline, radial, and ulnar). Statistical analysis by a generalized linear model was performed on the variables, "set blood pressure", "subcutaneous-internal vein depth", and "type of vein."

Result：During comparison of depth of the three major types of forearm cutaneous venous vessels, the depth of the basilic vein was significantly higher than those of the other types of venous vessels ($P<0.001$). Therefore, the basilic vein on the ulnar side of the forearm is deeper from the subcutaneous to the internal venous blood vessel levels than the other two types of venous blood vessels.

Discussion and Conclusions：In selecting the forearm venous blood vessel for puncture, since the vein at the ulnar side of the forearm is deeper, the practitioner tends to insert the puncture needle deep, which risks the injury to the median nerve and the radial artery running in the vicinity. It is suggested that the risk of accidental puncture is higher in the basilic vein than in the other two types of venous blood vessels.

In addition, in this study, in cases where it was difficult to visually observe the effective vascular puncture on the skin surface, such as when a large amount of muscle mass and subcutaneous fat were present in the forearm, a non-invasive ultrasonic device was used, in advance. By confirming the position of the venous blood vessel at the planned puncture site and measuring the distance from the skin to the internal venous blood vessel, it helped achieve a more reliable and safer puncture.

The practitioner evaluated the puncture site, puncture depth (length), and angle of the puncture needle, in advance, to reduce the difficulty of the puncture procedure and reduce the number of puncture attempts. In recent years, the clinical application of portable, small ultrasonic diagnostic device has increased similar to the next-generation nursing technology; hence, we believe this study contributes to the clinical application of this equipment.

発表学会名：East Asian Forum Of Nursing Scholars（EAFONS）2022
発表場所：台湾
発表日：2022 年 4 月 21 日～ 22 日（遠隔会議）

2021 年度事業活動報告

国際交流委員会

担当理事および委員
（○：委員長）
田村　由美（日本赤十字広島看護大学）、○堀内　成子（聖路加国際大学）、
荒川　満枝（鳥取看護大学）、長松　康子（聖路加国際大学）、
中村　敦子（日本赤十字広島看護大学）

1. 研修会

研修会テーマ：「看護学教育にいかに SDGs を取り入れるか」

Web ライブ研修会およびビデオ収録日：
令和 3 年 11 月 5 日（参加者 104 名）

公開期間：令和 3 年 11 月 26 日から令和 4 年 2 月 26 日（視聴回数 573 回）

講演の概要：

講演 1.「看護を通じて SDGs を考える授業」

高橋 幸子 氏（目白大学 看護学部　准教授）

目白大学では、大学を含む法人全体が 2020 年 7 月に SDGs 取組宣言を行ったことを受けて活動をしており、2021 年度は目白学園「ECO アクション」（環境プロジェクト）企画募集を行い、10 月には大学祭において大学主催で様々な学科の ECO アクション企画・プロジェクトの発表が行われたとのことだった。こういったイベントプロジェクトについては、継続が難しいという側面もある一方で、看護学部では、基本的な活動そのものが保健・医療・福祉に関する活動という点で SDGs への参加を行っていると認識しているということだった。

看護学部のカリキュラムは SDGs の特に「すべての人に健康と福祉を」に関連付けられるため、現行の内容を SDGs にどうつながるかをシラバスに示すという活用が可能と考えられていた。その他「気候変動に具体的な対策を」についても、看護技術を行う際の物品の使用・廃棄に関する意識付けなどが該当し、「質の高い教育をみんなに」については、現在のコロナ禍で、実習を含む教育の質を確保し、OSCE やシミュレーション教育の充実など実際に行っている授業への関心が該当すると指摘された。さらに、「生きがいも経済成長」については、統合看護実習において就職後のリアリティショック防止を図ることやキャリア形成が関連し、「住み続けられるまちづくりを」他についても看護との関連が語られ、教員が意識して教育を行い、病院での取り組みを参考にすることも有用とのことだった。臨地実習での学生との会話でも、患者さんにやさしい看護師であると同時に地球にやさしい看護師でありたいなどとの話が紹介された。

委員より、「総合大学の場合、他学部との SDGs との協働の状況は？」との質問があり、「看護学部が他学部と離れているため、協働することは元々難しかったが、コロナ禍でのリモート授業の形態を利用して交流が可能となっているため、今後取り入れたい」と回答があった。また今年度は、学部内の FD 研修を通して教員間で活用を共有する予定とのことだった。

講演 2.「ゼミナールを通じて SDGs について考える：1-2 年合同必須科目」

宮澤 純子 氏（城西国際大学 看護学部 学部長）

城西国際大学看護学部では、地域・世界の課題に着目し、主体的に学ぶという目標のために、低学年ゼミナール（プロジェクト教育 a・b）、グローバルヘルス a（1 年次全員海外研修）、世界の中の日本（初年次教育地域・歴史）、地域創造プロジェクト（学部間横断）のような科目設定があるとのことで、そのうち低学年ゼミナール（プロジェクト教育 a・b）は必修の通年科目で、2012 年の開学時より設定されている科目とのことだった。この科目では、1、2 年生が興味を持っ

たテーマを出して、同様のテーマの者が学年横断で30 程度のテーマ毎に集まり、地域との交流を実際に行いながらグローバルな内容にまで発展させるというものであった。講演では実際の学生さんの活動の様子として、ビーチコーミングや高齢者サロンでの健康教育、防災かるた作成、児童養護施設でのドッグセラピーなどの具体的な活動について紹介があった。

それぞれの活動が、SDGs にどうつながるのかについて考えられており、いずれも「すべての人に健康と福祉を」を含みながら、様々な GOALs と関連できており、主体的な活動によって SDGs を身近に感じ、自分の生活を振り返ることができているとのことだった。またコロナ禍でも工夫をして取り組んでいたこと、若手教員の新鮮な感性を活かしていること、卒業研究指導のウォーミングアップになっているとのことだった。今後は、SDGs の GOALs の中で達成状況を考慮した活動ができないか模索したいと語られた。

委員からの「老年看護学や地域看護学などの専門の学習前からこのようなゼミナールを行うことで、実際の専門を学ぶ際にどのような効果があるか？」との質問に対して、「先入観なく学ぶ場になっていること、実際の専門科目でも地域の方・高齢者とのコミュニケーションのハードルが下がっている効果がある、地域のみなさんの良好な受入れ体制ができた状況で専門の実習に入る」との回答だった。また「選択科目ではなく必修科目とすることで、学生の意欲の確保ができている側面がある。」「学生によっては意欲の高さに関して違いもある」等、教育としての仕掛けの方法や苦労が語られた。

講演３.「未来から描くケア共創看護学教育 －自然・生命・こころ・技の循環－」

村瀬 智子 氏（日本赤十字豊田看護大学 看護学部 学部長）

SDGs を理解するために、掲げられた 17 の GOALs は 9 つの Key Words に集約されると言われている。これについて村瀬氏は理論を進めて、さらにひとつの「循環の滞り」という 1 つの問題がぞれぞれの面で顕在化されたもので、その解消によって解決可能ではないか、一方、各 GOALs は具体的に考えることで、無限に拡大できるであろうと言及された。つまり各事案をそれぞれの専門家が解決を試みるのではなく、様々な専門家が各問題に通底する理論を構築してそれを元に解決を試みるなど、国際的・学際的な対話や研究の意義と可能性を指摘され、さらに看護学教育においては、国際的視野の醸成にもつながると言及された。

講師が実際の看護学教育の場面で実践なさっている「紙面上の 9 つの点を 1 本から無限の本数の一筆書きの折れ線でつなぐ」という例題を使った解答の導き方を実演を交えて解説されるとともに、輪ゴムを通したリボンにクリップをつけたものを用意して、リボンを引っ張るという連続したプロセスが想定外の構造を導き出すという実演、また砂山モデルもお示しいただき、授業の中での学生の反応についてもご紹介いただいた。9 つの点の問題などは、9 つの SDGs の Key Words が 1 つの問題に集約されるということも連想され、また解答の導き方について、NECTE 理論を用いて解説された。

また病気の発症と病気の治療・看護のアプローチについて、強みや弱みの枠組みや捉え方を変えて、弱みよりも強みを活かすというリフレーミングの考え方が示され、教育についても成功（健康）と失敗（病気）の捉え方について、一元論や二元論を超えて失敗と成功が時間的経過の中で循環するという循環論の考え方を提唱された。

自己と非自己、自然、生命、こころ、技は連続性をもって存在するものであるということを前提に、看護者が病を持つ人とともに存在し、ケアしケアされる過程で語り合い紡ぎあうダイナミックな関係性を共に創造するということを「ケア共創」とされ、未来目標を掲げた上でのものとして「未来から描くケア共創」という看護哲学が語られた。

委員より、「新しい枠組みを学ぶ学生の生き生きと

した反応や柔軟な思考を感じることができた」というコメントがあり、「語られた教育実践はどんな科目で行われているのか」との質問に対して、「今回の実践例は、実際は精神看護学や哲学の授業で使っている」とのことだった。「“ 看護には正解がない ” と伝えても学生は実感できないが、実演を交えた教育方法を使うことで、正解がないことを実感し、自分が患者との関わりの中で時間の経過の中で作っていくんだと感じているようだ」とのことであった。

研修参加者からの評価

66 名からの回答があり、助教（17%）･講師（23%）･准教授（29%）・教授（23%）という内訳であった。講演 1･2･3 ともに「大いに役立った、少し役立った」と回答したのは、回答者の 90%以上であり、タイムリーな企画であった、SDGs と看護教育との関連を見直す良い機会になった、自分の大学にも取り入れてみたいという声が聞かれ、会員校同士の交流という本企画の意図は達成された。

2. 委員会

第 1 回国際交流委員会

開催日時：2021 年 5 月 11 日（火）17：00 ～ 18：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）田村由美、堀内成子

（委員）荒川満枝、長松康子、中村敦子

（五十音順　敬称略）

議題：1. 2021 年度事業計画

2. セミナー開催に当たっての業務分担

3. 委員会内の業務分担

4. 今後の予定

第 2 回国際交流委員会

開催日時：2021 年 6 月 29 日（火）16：00 ～ 16：40

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）堀内成子

（委員）荒川満枝、長松康子、中村敦子

（五十音順　敬称略）

株式会社プランニングウィル　飯塚氏

議題：1. 2021 年度セミナー開催の準備状況

2. 今後の予定

3. 今後の課題

昨年度に引き続き、Web セミナーは多くの会員校からの参加者を得ることができた。COVID-19 パンデミック発生前にくらべて参加者が多く、また繰り返し視聴できる利点も確認できた。次回研修テーマとして寄せられている声は、国際看護学の取り組み、海外研修の内容、看護教育とジェンダーフリー、地域生活者の視点を理解する教育など、多岐にわたっている。話題提供は、地域やテーマ等偏ることなくできるだけ多くの会員校から行っていただきたいと企画している。国際交流の現状、課題、障壁、工夫、改革などを忌憚なく検討しながら交流できる場でありたい。

2021 年度事業活動報告

大学運営・経営委員会

担当理事および委員
（○：委員長）

鎌倉　やよい（日本赤十字豊田看護大学）、
齋藤　ひろみ（前仙台青葉学院短期大学）（2021 年 7 月 31 日まで）、
諸喜田　美恵（白鳳短期大学）（2021 年 7 月 31 日から）、
長澤　正志（淑徳大学）、○春山　早苗（自治医科大学）

1. 研修会「大学における質保証」

日時：令和 3 年 10 月 25 日（月）13：30 ～ 16：10
場所：Zoom ウェビナーを用いたライブ配信（動画配信期間　令和 3 年 11 月 1 日～令和 4 年 2 月 1 日）
参加申込者：312 名（教員：272 名　事務系：40 名）
参加申込校数：105 校
当日参加者：175 名（教員：139 名　事務系：36 名）
参加校数：81 校
動画視聴回数：529 回
開催趣旨：

認証評価においては、単に自己点検・評価の充実にとどまらず、PDCA サイクルを機能させて大学教育の質の向上や質の保証を図っていくことが求められてきた。2018 年度からの第 3 期認証評価においては、内部質保証システムが有効に機能し、学内に定着しているかなど、内部質保証の実質化をより一層重視する評価となっている。

一方、認証評価を受審する大学側からは、内部質保証として求められていることがわかりにくい、大学全体として内部質保証システムを構築し、PDCA サイクルを回していくことが難しいなどの声が聞かれる。

本研修会は、大学における内部質保証及びそのシステムを機能させていくためのポイントや留意点を理解し、単科大学や総合大学など様々な体制の私立看護系大学が自校に照らし合わせ、内部質保証を推進していくための示唆を得ることを目的とした。

プログラム：

13：30 ～ 13：40　会長挨拶
日本私立看護系大学協会会長 河口 てる子
13：40 ～ 14：40
講演 1「内部質保証のポイント―大学基準協会大学評価の事例をもとに―」
公益財団法人 大学基準協会 評価研究部
部長 田代 守 氏
14：40 ～ 15：40
講演 2「東京理科大学の内部質保証について」
東京理科大学 副学長（自己点検・評価担当）
渡辺 一之 氏
15：40 ～ 16：05　質疑応答
16：05 ～ 16：10　閉会挨拶
日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会委員長　春山 早苗

〈講演 1〉

田代氏は、大学基準協会の考える内部質保証とは何か、なぜ必要なのか、そして大学基準「解説」に基づく内部質保証の機能、条件、内部質保証システムの検証と改善･向上のポイント、内部質保証の 5 つの点検･評価項目毎の評価者の観点及び内部質保証の体制面のポイントについて、事例も紹介しながら講演された。

内部質保証は「PDCA サイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセス」と定義される。その主な目的は、教育の充実と学習成果の向上であり、「自己点検･評価」は内部質保証の一局面であってイコールではない。

内部質保証の体制面のポイントは、第一に、単に自己点検・評価するためだけではなく、大学として責任をもって教育の企画・設計から、その実施、検証・改善を行っていける体制を持たなければならない。第二に、学部・研究科、学科の PDCA 体制・機能を明確にするとともに、学部・研究科等と全学内部質保証推進組織がリンクして、前者から後者への自己点検・評価の結果の報告、後者から前者への運営・支援の組織体系やフローを明確にすることが必要である。

〈講演 2〉

渡辺氏は、東京理科大学の内部質保証システムについて、方針と実施体制、実際の動き、有効性、運用の工夫を講演された。

東京理科大学では、2016 年度から内部質保証の取組を模索し、①「内部質保証の方針及び手続」の設定②「大学全体の内部質保証に責任を負う組織」の整備③ PDCA サイクルの有機的な連動をポイントに、2018 年 12 月に内部質保証システムを導入した。まず、点検・評価に留まらず、組織的な改善活動を運営し、実質化することによって教育研究の質を継続的に向上

させるための基盤となる方針を設定した。特に PDCA の C（検証）と A（改善）を強化するために、①必要な組織とその役割・機能②部局による活動の支援の形③活動の整理方法及び PDCA サイクルの実質化を検討した。

当大学の内部質保証システムの強みは、内部質保証推進組織として大学質保証推進委員会と自己点検・評価委員会を置き各役割が明確化されていること、自己点検・評価活動、改善活動を確実に実行し、その結果を検証する仕組みを構築していること、内部質保証推進組織に学外有識者が関与することでその客観性の向上を図り、また外部評価によりシステム全体の検証・評価を実施していること、である。外部評価等に基づき設定した課題には、本システムへの地域社会や産業界の参画、大学独自の定義による学修時間や学修成果の測定指標の導入、点検・評価、改善活動の公表方法の工夫、エビデンスベースによる検証強化のための IR 機能の実質化、長所・特色の認識と伸長である。

運用の工夫として、第一に学内に浸透させるための取組として、研修会や勉強会の開催等を実施している。地道に継続して行うことで少しずつ浸透し、意識も向上する。また認証評価受審がその好機となる。第二に自己点検・評価の精度向上及び効率化のために、概ね 3 年間で点検・評価項目の全ての「評価の視点」を網羅することとしている。最後に、PDCA サイクルをわかりやすくするために、点検・検証→課題の明確化→改善活動計画→改善内容→推進委員会からのフィードバックの一連を 1 シートとした、自己点検・評価報告書のフォーマットに改訂したことがある。

〈質問〉

田代氏の講演に対し、学生による参画を制度化し客観性を担保している事例について質問があり、田代氏から学生も入れた全学協議会の実施等、渡辺氏からは学生との定期的な連絡会の実施等について紹介・説明があった。また、内部質保証推進組織の各部局への支援内容について質問があり、田代氏からは 1 つの学部等での良い取組を他の学部等と共有し横展開できるようにしていくこと、渡辺氏からは自己点検・評価のノウハウや文章の書き方等を細かに伝えていくことが述べられた。第 4 期認証評価について質問があり、田代氏より、第 3 期に引き続き内部質保証の有効性を見ていくことは変わらず、また基準 4 の学生の学習効果の向上をいかに図っていくかということと分離されずに理解しやすい形としていくこと、基準の変更はできるだけ避けること、COVID-19 の影響で遠隔教育が推進されている中で、その教育上の措置や学生への配慮等の視点を入れていくことなどが検討されているとの回答があった。

2.『看護系大学に関する実態調査』の活用に関する調査

日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

調査目的：実態調査の活用状況や調査への期待を明らかにして、実態調査の結果や収集したデータの効果的な活用方策を検討する。また、活用目的や期待に照らして、効率的に情報を収集し、調査による負担の軽減策も検討する。

調査対象：日本看護系大学協議会と日本私立看護系大学協会会員校 302 校

調査方法：Web 調査

調査期間：令和 3 年 9 月 15 日～ 10 月 5 日

回収数（率）：178 校（58.9%）

3. 教員数に関する調査

日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

調査目的：看護系大学の教員定数あるいは実数が減少していることの問題提起を受け、今後の対策の資料とする。

調査期間：令和 3 年 10 月 1 日～ 10 月 15 日

4. 看護系大学に関する実態調査

日本看護系大学協議会データベース委員会と共同で実施した。

調査期間：令和 3 年 10 月 25 日～ 12 月 27 日

回収数（率）：290 校（99.3%）

5. 看護系短期大学に関する実態調査

調査期間：令和 3 年 10 月 25 日～ 11 月 29 日

対象：会員校である短期大学 10 校

6. 委員会

第 1 回委員会（Zoom 会議）

日時：令和 3 年 5 月 28 日（金）15：00 ～ 16：00

議事：1.『看護系大学に関する実態調査』の項目のスリム化について

2. 令和 3 年度研修会について

第 2 回委員会（Zoom 会議）

日時：令和 4 年 3 月 10 日（木）18：00 ～ 20：00

議事：令和 4 年度研修会について

7. 日本看護系大学協議会・日本私立看護系大学協会合同調査プロジェクト合同会議

第 1 回合同会議（Zoom 会議）
日時：令和 3 年 7 月 11 日（日）15：00 ～ 17：00
議事：1. 実態調査の設問のスリム化の検討
2. データベース化（ローデータ）の検討
3. その他

第 2 回合同会議（Zoom 会議）
日時：令和 3 年 9 月 24 日（金）17：30 ～ 18：45
議事：1. 実態調査の設問の年度・年月の検討
2. 教員数の削減に関する調査の検討
3. その他

第 3 回合同会議（Zoom 会議）
日時：令和 4 年 1 月 14 日（金）17：30 ～ 19：00
議事：1. 実態調査報告書の表示方法について
2. Q＆Aの整合性の確認
3. 今後のスケジュールと進め方
4. 前年度調査の回答について
5. その他

第 4 回合同会議（Zoom 会議）
日時：令和 4 年 3 月 28 日（月）17：30 ～ 19：00
議事：次年度に向けた実態調査の設問の検討について

2021 年度事業活動報告

渉外委員会

担当理事および委員（○：委員長）　河口　てる子（日本赤十字北海道看護大学）、島袋　香子（北里大学）、長澤　正志（淑徳大学）、○山本　あい子（四天王寺大学）

1. Nursing Now キャンペーンへの参画

【実行委員会】

開催日時：2021 年 6 月 23 日（水）10：00 ～ 11：30

開催方法：Zoom による Web 会議

議題：

1. 2021 年「看護の日」トークイベント Nursing Now キャンペーン総括に関する実施報告
2. Nursing Now キャンペーン 最終イベント「グローバルフットプリント」：西太平洋地域に関する参加報告
3. Nursing Now キャンペーン報告書骨子案について
4. その他
   1）Nursing Now キャンペーン最終報告書（Agents of Change: the story of the Nursing Now campaign）の公表について
   2）今後のスケジュール（Nursing Now キャンペーン終了および Nursing Now チャレンジについて、日本看護学会 交流集会企画案について）

○報告書提出

協会としてのキャンペーンでの取り組みと Nursing Now ニッポン宣言を受けての展望について報告書を提出した。

2. 高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会

【委員会】

○第 1 回

開催日時：2021 年 5 月 13 日（木）9：00 ～ 10：55

開催方法：Zoom による Web 会議

議題：

1. JANPU-NP 教育課程に関するアンケート結果について
   1）NP の定義について
      ① JANPU-NP の定義
      ② NP 協議会の定義
   2）医師の働き方改革の推進に関する検討会
   3）今後の JANPU-NP について
   4）APN グランドデザインについて

○第 2 回

開催日時：2021 年 7 月 12 日（月）9：00 ～ 10：15

開催方法：Zoom による Web 会議

議題：

1. 山本代表理事の委員会出席について
2. 今年度の活動方針について（JANPU 重点事業として）
   1）高度実践看護師教育課程について
   2）APN グランドデザインの構築に向けて（山本代表理事）
   3）今後の委員会活動に向けて
3. 作業委員会の提案
4. 作業部会を進めていくにあたって
5. JANPU-NP の活動実績について

沖縄県立看護大学の修了生との Zoom ミーティング（7 月 19 日 12：00 ～ 14：00）

○第 3 回

開催日時：2021 年 11 月 15 日（月）9：30 ～ 11：00

開催方法：Zoom による Web 会議

議題：

1. 各部会報告（CNS 部会、NP 部会報告）
2. 今後の方針について
   日本版コンセンサスモデル（案）および APN グランドデザイン（案）について

○第 4 回

開催日時：2022 年 2 月 21 日（月）15：30 ～ 16：50

開催方法：Zoom による Web 会議

議題：

1. 各部会報告（CNS 部会、NP 部会報告）
2. 今後の方針について
   日本版コンセンサスモデル（案）および APN グランドデザイン（案）について
3. その他

3. 2021 年度自民党厚生労働部会　看護問題小委員会への要望書提出

日本看護協会、日本看護連盟を通じて、2021 年 8 月 31 日開催の看護問題小委員会への参加案内があった。2022 年度政府の概算請求の報告に対し、看護の問題について要望提案し、看護政策や国家予算について議論する場であり、看護政策の実現に向けて、本協会として要望書を提出した。

（要望書概要）

1. 看護教育の質保証に向けた教育環境の充実のための予算措置
   1）教育機関ならびに実習施設を含めた ICT の活用体制整備
   2）シミュレーション機器等の充実・整備
   3）全看護系大学が使用可能な教材プラットフォームの構築にむけた予算措置
   4）看護教員の雇用と病院における教育要員の配置に伴う予算措置

4. 教育学術新聞への掲載

1. 私立大学協会が発行する教育学術新聞に令和 4 年私学関係者「新年名刺交換」広告に河口てる子会長の名刺を掲載した。
2. 同新聞の企画「看護系学部の新たな臨地実習の工夫と展望」の執筆依頼があり、河口てる子会長と会員校 3 校（聖隷クリストファー大学、藤田医科大学、東京医科大学）により、連載した。

5. 日本看護図書館協会創立 30 周年記念機関紙「看護と情報」29 号への寄稿

河口てる子会長が、「学術の開花・成長と並走する看護図書館」と題し寄稿した。

6. 令和 3 年度看護師国家試験についての受験状況調査

新型コロナ感染症のパンデミック下の令和 3 年度看護師国家試験の受験状況について、実態を把握するための調査を日本看護系大学協議会日本私立看護系大学協会、日本看護学校協議会と協同し実施した。期間は 2022 年 2 月 14 日から 18 日。結果は 3 団体で共有し今後の国家試験のあり方を検討する際の資料とする。なお、調査結果によっては、厚生労働省への要望を検討する。

7. 声明等の周知

看護職を含む人々と国際社会の連帯に資するため、国際看護協会、ヨーロッパ看護師協会連合、各国看護師･助産師協会欧州フォーラム等の声明等を周知した。

2021 年度事業活動報告

広報委員会

担当理事および委員（○：委員長）　濱中　喜代（岩手保健医療大学）、三国　久美（北海道医療大学）、○守田　美奈子（日本赤十字看護大学）

1. 会報の発刊

（1）会報第 45 号を 2021 年 5 月に発刊

① 2020 年度事業活動報告
②会員校の特色のある取り組みの紹介
③理事会報告
④事務局からのお知らせ

（2）会報第 46 号を 2021 年 11 月に発刊

①会長挨拶
②新規会員校紹介
③会員校の特色のある取り組みの紹介
④ 2021 年度研究助成事業の採択者及び論文抄録
⑤社員総会・理事会報告
⑥役員一覧
⑦事務局からのお知らせ

〈会報 46 号：例年との変更点〉

2021 年度も新型コロナウイルス感染症対策として、社員総会付帯事業の講演会が中止となったため、講演会記事の代わりに、昨年度のシミュレーション教育に関する研修会での事例紹介を掲載した。

（3）編集

原稿の依頼や原稿の受取は原則メールで行った。

（4）配布部数

会員校：1 校 50 部
関係団体：約 120 部

2. 年次報告書の発刊

2020 年度年次報告書を 2021 年 7 月初旬に発刊、会員校に配布した。

3. ホームページの検討

4 月より運用を始めた新ホームページについて、委託業者からの報告を受け、改善に努め、適宜更新した。

4. 委員会の開催

○第 1 回広報委員会
開催日時：2021 年 4 月 23 日（金）11：30 ～ 12：20
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（五十音順敬称略）コーディア（株）荻島氏、中井氏
議題：1. ホームページについて
2. 会報第 46 号について
3. 今後のスケジュール

○第 2 回広報委員会
開催日時：2021 年 6 月 17 日（木）
開催方法：メール会議
参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（五十音順敬称略）
議題：ホームページトップページに掲載予定の動画について

○第 3 回広報委員会
開催日時：2021 年 7 月 16 日（金）16：00 ～ 17：30
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（五十音順敬称略）コーディア（株）荻島氏、中井氏
議題：1. トップページの動画について
2. ホームページ運営について
3. 会報 46 号について

○第 4 回広報委員会
開催日時：2021 年 10 月 11 日（月）12：30 ～ 14：00
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（五十音順敬称略）コーディア（株）荻島氏、中井氏
議題：ホームページ運営について

○第 5 回広報委員会
開催日時：2022 年 1 月 28 日（金）　14：30 ～ 16：00
開催方法：Zoom を用いた Web 会議
参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（五十音順敬称略）コーディア（株）荻島氏、中井氏
議題：1. 会報第 47 号について
2. ホームページについて

5. 今後の課題

・2021 年 4 月にリニューアルした HP の運用に関して、制作業者から定期的に、HP の活用状況等や利用頻度の高いコンテンツ等の報告を受けている。この報告により HP の充実を図ることが可能となっているので、今後も会員、一般の方等が活用しやすい HP を目指して更新を継続していく。
・年 2 回の会報など広報活動の更なる充実を図る。

2021 年度特別事業

シミュレーション教育教材開発プロジェクト

本協会では、2021 年度特別事業として「シミュレーション教育教材開発プロジェクト」を実施しました。この事業に参画していただいたプロジェクトメンバーは、短期間に全力をもって活動され、その成果を私立看護系大学に提供することができました。

撮影や編集などは株式会社京都科学にご協力いただきました。

・プロジェクト長：阿部幸恵（東京医科大学）
・小児看護学担当：加藤令子（関西医科大学）
・基礎看護学担当：川西美佐（日本赤十字広島看護大学）
・成人看護学（急性期）担当：川原千香子（愛知医科大学）
・在宅看護学担当：正野逸子（西九州大学）、野元由美（産業医科大学）
・精神看護学担当：藤野ユリ子（福岡女学院看護大学）
・成人看護学（慢性期）、老年看護学 担当：森岡広美（関西医療大学）
・母性看護学担当：若井和子（川崎医療福祉大学）

（五十音順　敬称略）
（所属は 3 月 31 日時点）

シミュレーション教育教材開発プロジェクトに参画して

東京医科大学医学部看護学科
阿部幸恵

特別事業である「シミュレーション教育教材開発プロジェクト」のプロジェクトリーダを務めさせていただきました。このプロジェクトのミッションは、年度内にシミュレーション教育教材を作成し全会員校に配布することでした。昨年 8 月の始動でしたので、残り期間も少なく、また、1 月には、オミクロン株の感染拡大という難題の中でのミッション遂行でした。この厳しい中で、成果物を仕上げることができたのも、メンバーとなった先生方の力とチームワークです。皆様とのご縁が私には何よりの財産です。私は、全シナリオの撮影に関わりましたが、訪れる大学すべてでシナリオを作成された先生だけでなく、関係する多くの教員が協力して撮影と指導の準備をして下さいました。このプロジェクトは、私たちメンバーだけで成し遂げたのではなく、シナリオを作成された先生方の大学でこのプロジェクトを支えて下さった先生方や事務の方々がいたことも忘れたくありません。また、各大学で協力して下さった学生さんたちには、行く先々で感動をいただきました。どの大学の学生も、私とは初対面でしたが、すぐに打ち解け、楽しくシミュレーションに参加してくれる彼らの姿に励まされました。このプロジェクトの成果物は、各大学の教員のために作られたものですが、実は、学生たちの育ちのために作ったものだと思うようになりました。だから、我々チームは頑張り抜けたのだと感じています。DVD に登場する学生たちの生き生きと学ぶ姿が、全会員校でも見られるようになりますように、願っています。そして、このプロジェクトに関わって下さった多くの方に心から感謝を申し上げます。

シミュレーション教育教材開発に取り組んで

関西医科大学看護学部・看護学研究科
こども看護学領域教授
加藤令子

私は約 10 年前よりシミュレーション教育に関心を持ち、国内での研修や海外のシミュレーションセンターの見学を行ってきました。阿部幸恵先生とは、10 年前の講習会でお会いしており、今回ご一緒できることを楽しみに参加させていただきました。

開発チームの何度かの Web 会議で、各領域担当者の緻密なシミュレーション教育の組み立てや教育への熱い思いに触れ、頑張らねばという思いになりました。また、今回の様な感染症のパンデミックや大規模な災害発生等により、臨地実習ができない場合の学生への技術教育の在り方について、深く考える機会となりました。

こども看護学教材は、会員の皆様にお届けすることが出来ていない状況です。これは、新型コロナウイルス対応の「まん延防止等重点措置」により、撮影前日の午後に学生の登校が禁じられたことにより、私が撮影を中止としたためです。

私達は必要物品を新たに購入し、教員間で何度か練習を行っていました。また、学生もシナリオに合わせ必要な物品の準備を整えていました。そのため、他領域の教育教材と一緒に皆様にお届けできないことが残念でなりません。しかし、阿部先生に 3 月中も撮影が難しいことについてご連絡をした際、「2 度の楽しみがあると思えば良いのよ」という返信をいただき、その前向きな発言に感激致しました。こども看護学領域の撮影、頑張りたいと思っております。

教材開発に参加して　急性期の「ここ見て！」

愛知医科大学医学部シミュレーションセンター（撮影時）
川原千香子

今回、成人看護学（急性期）のシナリオと動画を担当させていただきました。近年、急性期領域では、クリティカルケアや災害と周手術期は教科書もそれぞれあり学習の範囲の広さを感じます。当学も救急看護、集中治療ケアは別のカリキュラムがあるため、急性期では主に周手術期を取り上げています。そのため、今回はシナリオを周手術期としました。

動画撮影に至るまで、出演してくださった学生さんたちとは、メールでのやりとりでしたが、撮影が始まってみると、実にしっかり準備をして臨んでくれていて、本当に感動しました。シミュレーションが、自分たちの学習になるからと出演を引き受けてくれたと聞き、さらに感動したのはいうまでもありません。

今回、「ここ見て！」ポイントは、学生のディスカッション時の私や阿部先生の立ち位置、声掛けのタイミングです。最初にポイントを伝え、途中で追加ポイントを投げかけますが、あくまで学生中心で進めています。即ち私たち教員は案内役です。学生同士で話し合いながらお互いを認め合い、高めあっている姿にご注目ください。シミュレーション教育の肝は、学生たちが自ら気づき、成長していく姿だと考えます。学生の潜在能力を引き出しましょう。

緻密に企画して、大胆に実行する

日本赤十字広島看護大学基礎看護学
川西美佐

“ 緻密に企画して、大胆に実行する ”

今回、私が最も得た知見はこの一言です。これまでフィジカルアセスメントのシミュレーションについて自分が作成してきたよりも格段に緻密にシナリオを作成し、「ここまで緻密に企画すると、実施でシナリオに縛られてしまうのでは？」と正直懸念していました。しかし教材撮影をしてみると、縛られるどころか、シナリオを超えて学生達の学びがスパークするように湧き上がっていました。その表情の輝きとアセスメントの深さに驚きました。

この反応を得られたのは、緻密に企画したうえで、シミュレーションは大胆に実行した所以でした。8 名の学生を二分して少人数で話し合いながら、途中で両者が不明点を説明し合い共有するデブリーフィングにより、教員は舵取り的発問を挟む程度で、学生自身がホワイトボードに食らいつくように学びを記載していました。また、デブリーフィングの中で不足情報に気づいたら適宜病室に追加観察に行く柔軟な実施により、学生自身が疑問を解決しアセスメントの結論を導き出していました。この動的かつ大胆な実行をしても着地点がブレないために緻密な企画が必要なのだと実感しました。

参画の機会をいただき、リーダーの阿部先生をはじめプロジェクトの皆様に助言をいただけたことに心より感謝申し上げます。撮影の最後に学生が言ってくれたこの言葉が全国に広がることを願っています。

「先生、また一緒にシミュレーションしましょうね！」

シミュレーション教育教材開発に参画して、感じたこと

元西九州大学看護学部
正野逸子

シミュレーション教育はこれまで一部に関わることはありましたが、シナリオの作成から計画の実施、動画の撮影までかかわったのは初体験でした。非常に貴重な学びをさせていただきました。一番印象に残ったのは、シミュレーション教育の撮影の冒頭に、阿部先生が、「学生に正解を求めなくていいんです。デブリーフィングを繰り返す中で、学生が思考していくことが

大事です」と言われたことでした。教員はすぐ正解を求める傾向にありますが、シミュレーションでイメージ化を図り、その現象を分析し、そこからアセスメントや対策を考える能力を育成することの重要性に気づかされました。看護は答えがすぐに得られる場面は少なく、むしろその逆の場面に遭遇することばかりです。特に在宅看護の場面ではその傾向が顕著といえます。帚木氏は早急に問題解決ばかり求める現代の教育の在り方に警鐘を鳴らし、解決できない問題があってもじっくり耐えて熟慮するネガティブ・ケイパビリティ（答えの出ない事態に耐える力）を育成することの重要性を指摘しています。シミュレーション教育は、学生が主体的に熟慮する教育方法として、看護教育に欠かせないことを実感しました。ご指導いただいた阿部先生をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

シミュレーション教育教材開発への参加を振り返って

産業医科大学産業保健学部広域・発達看護学
野元由美

シミュレーション教育教材開発のお話をいただいた時は、正直荷が重く、適材ではないと思っていました。しかし、キックオフミーティングに参加して、このプロジェクトのメンバーの方々のエネルギーに圧倒され、「やって・・・みようかな」と、日頃ネガティブ思考の私もポジティブ思考に切り替え、挑戦することができました。殆どが初対面の方々でしたが、阿部先生を中心に「前だけ向いて進む！」という雰囲気に大変刺激を受けました。

わからないことばかりでしたが、阿部先生、正野先生の強力なサポートのおかげで何とか撮影を終えることができました。撮影には本学の学生に協力してもらったのですが、撮影中の学生の活き活きとした言動に感動し、また、このような表情や言動を引き出すことができるシミュレーション教育の素晴らしさを痛感しました。そして学生よりも私自身が 1 番学ばせていただいたと喜んでいます。

このような貴重な体験ができたのも、阿部先生、正野先生、撮影場所を提供してくださった藤野先生、模擬患者さん、学生のみなさんのおかげです。この貴重な機会を今からの学生の学びに活かして行けるよう、ポジティブに取り組んで行こうと考えています。本当にありがとうございました。

看護シミュレーション教材開発の裏話 ～年末の怒涛のスケジュール～

福岡女学院看護大学
藤野ユリ子

6 月上旬にプロジェクトリーダである阿部幸恵先生から本プロジェクトについて連絡があり、大きな決断のもと阿部先生が活動を開始したことを覚えています。その後、オンラインでシナリオづくりの打ち合わせを重ね、10 月より撮影が始まりました。

私は、精神看護学の教材開発を担当しました。統合失調症の幻覚妄想状態は DVD などの映像だけでは理解が難しく、実習前にシミュレーションを経験することの有効性を感じていました。精神科看護の経験がある方に模擬患者を依頼し、実習で忙しい学生の協力を得て 10 月に初めての撮影を終えました。

最も過酷なスケジュールは年末 2 日間に行われた 3 本の撮影でした。雪の影響で交通機関が乱れたにも関わらず福岡で 27 日午後に 2 本、28 日に岡山で 1 本の撮影を行いました。撮影関係者や教員等、多くの人に囲まれる緊張感のある状況でも学生さんがシミュレーションに集中して取り組む姿を見て、精選されたシナリオの重要性を感じました。

今回のプロジェクトではコロナ禍でも学び続ける学生さんや教育に携わる先生方にお会いでき多くの励ましをいただきました。今後は、開発した教材を活用した先生方との情報交換ができる日を楽しみにしています。

シミュレーション教育教材開発プロジェクトに参画し感じたことや裏話について

関西医療大学保健看護学部保健看護学科
森岡広美

今回の日本私立看護系大学協会のシミュレーション教育教材開発プロジェクトに参画させていただき、会議や動画撮影の一連を通して、改めてシミュレーション教育の素晴らしさ、奥深さを再認識させていただく機会となりました。私とシミュレーション教育の出会いは、10 年近く前のとある学会での阿部幸恵先生のセッションに参加したことがきっかけで、当時教育方法について試行錯誤していたのですが、何故だか全てが非常に腑に落ち、この教育方法にビビッと来たのを現在も鮮明に覚えています。

今回、私は老年看護学および成人看護学（慢性期）

のシナリオを担当させていただきましたが、コロナ禍やポストコロナを見据えたカリキュラムの構想をする機会ともなりました。シナリオの作成やシミュレーションの動画撮影では、阿部先生にご指導をいただき、ブラッシュアップすることができました。老年看護学では患者役と看護師役の学生さんとのやり取りが絶妙です。成人看護学（慢性期）では、看護師役の学生さんと教員が一緒に寝衣交換をおこなう（アドリブ）ところがレアで見どころだと思います。シミュレーション教育は、学生が失敗も含めて楽しく学べ、実際の体験から学びを広げることができ、正にコロナ禍にピッタリの学習方法だと思います。これからも留まることなく新しいシミュレーション教育を展開できるよう日々精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な学びの機会をいただきました阿部先生をはじめ日本私立看護系大学協会の理事の先生方、関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

失敗あっても達成感の喜び勝る シミュレーション教材開発

川崎医療福祉大学
若井和子

最も感慨深いのは、母性･助産を兼務しながらもチームで撮影できたことです。キックオフ会議後、皆の協力が得られるかどうか、私の最大の悩みでしたが、「やるしかない」と思い、執筆作業を進めていきました。11 月にシナリオが完成してチームへ説明を行うと、当初の悩みとは裏腹に協力の同意が得られ、安堵しました。そして学生への参加依頼や対応、会場設営など、各自が役割遂行し、リハーサルを重ね、無事撮影が終了しました。

ここからは裏話です。撮影当日、本番にもかかわらず、2 分程度の作戦会議で学習課題をクリアした学生の素晴らしさに驚いた反面、緊張の余り、ファシリテーターが問診途中でストップ指示を出してしまった失敗。ホストと自宅学習者との接続が途切れ、画像が反映されなくなったハプニング。学生主体でデブリーフィングするよう、教員の関わり方について阿部先生から助言をいただく場面等がありました。模擬患者役を務めた教員の役者ぶりは見事であり、シナリオを熟読して本番に臨んだことがよくわかりました。

今回シミュレーション教材開発に参画させていただき、教材作成から実践までのプロセスについてチームと共に体験できたことを心より感謝いたします。

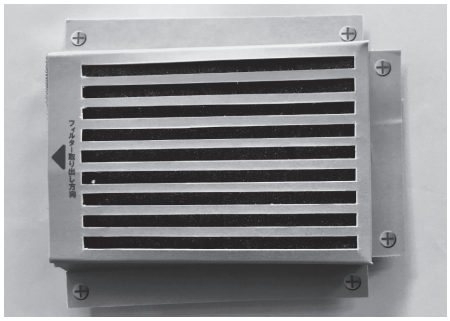
シミュレーション教育教材開発プロジェクトに参画させていただいて

株式会社京都科学

今回の教材は、90 分の授業を学生のみなさんは一切台本なし、1 発撮りで撮影しています。そのため、いざ授業が始まると学生さんの反応によって先生方の機転で予想外の展開が生まれることもしばしばあり、テイク 2 の無い撮影の中でシミュレーション教育のエッセンスを余すところなく、いかにカメラに収めるか、毎回機材を担いで奔走しました。緊張感はありましたが、熱意ある先生方の工夫の凝らされた授業と、楽しんで授業に取り組む学生のみなさんのエネルギーを肌で感じることができたことは、貴重な経験になりました。また、シミュレーションを重ねるたびに学生のみなさんの中に気づきが生まれ、ディスカッションが活発になっていく様子にシミュレーションを通した学びの力を感じました。素晴らしいプロジェクトに参画させていただきましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

手作りの酸素濃縮器

在宅看護論「在宅酸素療法中の療養者に対する情報収集とアセスメント」の撮影に際し京都科学さんが作成した酸素濃縮器。アイディアを出し合い、フィルターはスポンジ、酸素カニューラ・延長チューブは園芸用ホースを代用し、段ボールで作成しました。



理 事 会 報 告

第 3 回定例理事会

日時：2021 年 11 月 8 日（月）　10 時 00 分～ 12 時 20 分

審　議　事　項

1）選挙について

選挙スケジュールと 2022 年度の理事定数を確認した。また、選挙管理委員の委嘱について、執行部理事で関東地方の会員校の中から次年度も正会員になる可能性が高い人に打診し、承諾が得られれば委嘱することの承認を得た。

2）規程等の改正について

（1）文書取扱い規程、経理規程の改正について審議し承認された。

（2）専任職員就業規則・身元保証書様式の変更について審議承認された。

3）2022 年度研究助成事業について

（1）2022 年度募集要項の改正について

・看護学研究奨励賞、国際学会発表助成の応募書類の押印を必要としないことが承認された。

・看護学研究奨励賞の要件より紀要を除外することが承認された。

・若手研究者研究助成の研究経費申請上の注意事項に、「申請する研究経費は 50 万円を超えないでください。」と記載すること、選考基準項目を①研究目的の妥当性（看護学への貢献、研究の意義）、②研究方法の妥当性、③独創性、④研究計画実現の可能性、⑤研究経費の妥当性、⑥準備状況の 6 項目に変更することが承認された。

（2）研究助成事業規程施行細則の改正

看護学研究奨励賞の要件より紀要は除外することが承認された。

（3）各書式の変更

2022 年度募集要項変更に伴い、若手研究者研究助成研究計画書、看護学研究奨励賞・国際学会発表助成推薦書の書式変更は承認された。

報　告　事　項

1）委員会事業活動報告及び会計内訳について

（1）大学教育委員会

片田範子理事より報告があった。10 月 3 日に行った研修会は昨年度より引き続き、シミュレーション教育を新型コロナウイルス感染症の収束後にも導入できるシステム構築に向けて開催した。講師の阿部幸恵先生からは、シミュレーション教育をあらゆる形で充実させて日常的なものにしていくことを、藤野ユリ子先生からは多様な看護実践につなぐシミュレーション教育の実践というテーマで自学の独自のシステムの紹介があった。午後からは、昨年取り上げていなかった在宅・小児看護学の分野の実践を紹介した。当日参加者は 294 名で、10 月 31 日時点での動画視聴数は 423 回である。また、昨年度実施した COVID-19 に伴う看護学実習への影響調査報告書をホームページに掲載している。「シミュレーション教育教材開発プロジェクト」については、東京医科大学阿部幸恵先生をプロジェクト長として、精力的に活動していると報告があった。また、2022 年 1 月 29 日の新任教員のための研修会「新人とともに成長する教員組織」について講演テーマが「禅に学ぶ人の育て方」に決定し、進捗しているとの報告があった。

（2）研究活動委員会

武田祐子理事より報告があった。2021 年度の研究助成事業について、また 9 月 18 日に開催した第 1 回研究セミナーについて報告があった。10 月 31 日時点で動画視聴数 218 回であった。

（3）国際交流委員会

堀内成子理事より報告があった。11 月 5 日に開催した研修会「看護学教育にいかに SDGs を取り入れるか」について、目白大学の髙橋先生からはすべての看護の授業科目にどう SDGs を関連付けていくか、城西国際大学の宮澤先生からは 1・2 年生の必修科目に SDGs を年間通じ展開されている事例の紹介があり、日本赤十字豊田看護大学の村瀬先生からは未来からケア・共創・看護学をとらえていく教育の理論を講演され、実り多い研修会となったと説明があった。

（4）大学運営・経営委員会

長澤正志理事より報告があった。10 月 25 日に開催した研修会「大学における質保証」について、当日参加者は 175 名であり、一大学で多くの方が参加された。大学基準協会の制度についての詳細な説明と東京理科大学の様々な工夫が紹介され有用であったと報告された。

日本看護系大学協議会（JANPU）と協働で行っている「看護系大学に関する実態調査」は JANPU からの要請により、教員数について今年度は調査対象年と調査当該年度のデータを 2 年分集計することとなったと説明があった。

（5）渉外委員会

河口てる子会長より報告があった。山本あい子理事の APN グランドデザイン委員会への参画と、日本看護協会と日本看護連盟を通じた自民党厚生労働部会看護問題小委員会への要望書を提出したことについて報告があった。

（6）広報委員会

守田美奈子理事より報告があった。会報 46 号を発行したことの報告があった。ホームページについては 7 月からの 3 か月間の運用状況レポートを基に、研修会や動画配信の導線に工夫を行い、引き続き改善努力を続けていくと説明があった。

2）中期決算について

長澤正志理事より報告があった。特別会計について将来事業特別会計は例年とおり一般会計より 100 万円繰入れ、維持管理特別会計は事務局移転に伴い一般会計より 100 万円繰入れたと説明があった。

3）シミュレーション教育教材開発プロジェクトについて

片田範子理事より報告があった。2022 年 3 月に成果物を会員校への発送に向け、精力的に進めている。撮影時には必要な感染対策を行い、学生個人が特定できないような配慮をしている。また、冊子と DVD の著作権を協会で持ち、各領域の教材作成者と著作権譲渡に関する契約を結ぶ予定であることが報告された。

4）会長表彰の副賞について

はさみを受け取った学生の反応では、「各団体から表彰があるが、学生は図書カードやクオカードのほうが喜ばれているよう。」「卒業式に記念撮影をしている様子もあり、表彰されることが重要である。」「手元に残るものがよいのではないか。」との意見があった。

「プロフェッショナルが使用する物は高価でしっかりした物だと卒業生へ意識付けするために、もう少し高価なものに変更してはどうか。」との意見が出され検討することとなった。

第 4 回定例理事会

日時：2022 年 3 月 30 日（水）　16 時 00 分～ 18 時 10 分

報　告　事　項

1）2021 年度事業活動報告と予算執行状況について

(1) 大学教育委員会

中嶋恵美子理事より開催した 2 つの研修会について詳細な報告があった。シミュレーション教育教材開発プロジェクトは阿部幸恵先生のリーダーシップのもと、順調に進行し成果物が年度内に会員校に届く予定であると報告があった。

(2) 研究活動委員会

秋元典子理事より開催した 2 回の研究セミナーと研究助成事業について詳細な報告があった。また継続審議となる 2023 年度研究助成事業について委員会で検討した結果についても報告があった。

(3) 国際交流委員会

堀内成子理事、田村由美理事が欠席のため、提出された資料を確認した。

(4) 大学運営・経営委員会

春山早苗理事より「大学における質保証」の研修会について、内部質保証の方針と実施体制、有効性、運用等の工夫などについての講演で大変好評であったと報告があった。また「看護系大学に関する実態調査の活用に関する調査」、「教員数に関する調査」、「看護系大学に関する実態調査・看護系短期大学に関する実態調査」についても報告があった。

(5) 渉外委員会

河口てる子会長より Nursing Now キャンペーン、JANPU の高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会への参画、2021 年度自民党厚生労働部会看護問題小委員会への要望書の提出、各関係諸団体への寄稿について報告があった。また、JANPU と看護学校協議会と協働で調査した「令和 3 年度看護師国家試験についての受験状況調査」の結果報告があった。

(6) 広報委員会

守田美奈子理事より会報第 45・46 号及び 2020 年度年次報告書の発行と、ホームページ改修について報告があった。

2）2021 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会決算について

長澤正志理事より最終的には 75 ～ 78％の執行率になる予定であると報告があった。

3）若手研究者研究助成の研究期間延長について

秋元典子理事より変更届け出のあった方の研究期間延長の理由はコロナ禍により研究計画とおり研究が進めていないためであるため、延長を認めたと報告があった。

4）会長表彰について

河口てる子会長より 2021 年度会員校のうち完成年度を迎えている 186 校に推薦依頼文を送付し 176 校より推薦を受け、賞状と副賞を送付したと報告があった。

審　議　事　項

1）2022 年度重点事業について

河口てる子会長より説明があり継続審議することとなった。

2）2022 年度事業活動計画について

島袋香子副会長より大学教育委員会と国際交流委員会へ、研修会の開催日を 11 月から 1 月の間で調整するよう依頼があった。

(1) 大学教育委員会

中嶋恵美子理事より 8 月に新任教員向けの研修会と、10 月以降にシミュレーション教育教材を活用した研修会を予定していると説明があった。

(2) 研究活動委員会

秋元典子理事より研究助成事業について 4 月 1 日より応募を開始し、選考委員会は 7 月に Web で開催する予定であると説明があった。また、第 1 回研究セミナーは 9 月 17 日に第 2 回研究セミナーは 2023 年 2 月 25 日に Web で開催し、それぞれ同日より若手研究者研究助成採択者の研究成果報告を 3 日間行うと説明があった。

(3) 国際交流委員会

堀内成子理事、田村由美理事が欠席のため、提出された資料を確認した。

(4) 大学運営・経営委員会

春山早苗理事より現在検討している研修会の講師は、協会の講師謝金の規程内では依頼ができないと説明があった。余人をもって代えがたいという理由が示されており、タイムリーな講演内容で会員校にとっても有意義であるので謝金を調整し依頼することとなった。また理事会において謝金額の適正について検討することとなった。

(5) 渉外委員会

河口てる子会長より今年度の事業を引き続き実施し関係諸団体と連携していくと説明があった。

(6) 広報委員会

守田美奈子理事より会報第 47・48 号発行と 2021 年度年次報告書を発刊し、研修会動画配信ページを改修する予定であると説明があった。

3）2022 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算について

長澤正志理事より説明があった。井部俊子監事よりコロナ禍が長期化しており、予算配分について抜本的に検討する必要があると意見が出された。

4）2022 年度研究助成事業選考委員について

秋元典子理事より説明があり承認された。

5）2022 年度役員候補者選出選挙について

河口てる子会長より選挙管理委員会を発足したと報告があった。また、立会人の選出について 4 月 14 日までに登録される 2022 年度正会員の中から 5 月 21 日に事務局で行われる開票に立ち会うことのできる方を執行部理事で検討し委嘱したいとの説明があり承認された。

6）東海大学医療技術短期大学の閉校による退会について

三国久美理事より説明があり承認された。

7）2022 年社員総会の開催方法について

河口てる子会長より対面と Web によるハイブリットの開催を検討したが、議決権の取り扱いなど解決しがたい問題があるため、昨年度と同じ方法で開催したいと説明があり、2022 年度社員総会は、正会員への Web による事前説明を経て、理事が Web 出席により議決権を確認する方法で開催することとなった。日程については、事前説明会は 7 月 8 日に開催し、社員総会は 7 月 29 日か 30 日で調整することとなった。

事務局からのお知らせ

2022 年度開設　私立看護系大学（50 音順）

学校名	学部学科名	定　員
大阪信愛学院大学	看護学部看護学科	80 名
金城学院大学	看護学部看護学科	100 名
宝塚医療大学	和歌山保健医療学部看護学科	50 名
令和健康科学大学	看護学部看護学科	80 名

2022 年度　研修会のお知らせ

大学教育委員会

「新任教員向け研修会」
8 月頃開催予定　Web 開催
「シミュレーション教育についての研修会」
10 月以降開催予定　Web 開催

研究活動委員会

第 1 回研究セミナー
「看護学における事例研究法　進化と今後の展望」
9 月 17 日（土） Web 開催
第 2 回研究セミナー
「論文投稿の処方箋」
2023 年 2 月 25 日（土） Web 開催

国際交流委員会

「ジェンダーフリー教育（日本・海外の実践例を学ぶ）」
開催時期未定　Web 開催

大学運営・経営委員会

「学校法人のガバナンス改革とこれからの私立大学の経営戦略（仮）」
10 月 24 日（月）午後もしくは 10 月 17 日（月）午後
Web 開催

編集後記

新型コロナウイルス感染症の収束はまだ見えてきません。この 2 年間、新型コロナウイルス感染症という外圧によって、教育方法は対面の授業から ICT を活用した教育へと大きく変化しました。2021 年度に、日本私立看護系大学協会は ICT を活用した教育方法の開発に力を入れ、Web を活用した新たな教材開発に取り組みました。今回の会報では、その開発に関わられた先生方や業者の方の報告記事も掲載しました。教材という成果物だけでなく、開発プロセスの工夫や苦労も会員の皆様と共有することで、教材活用への動機が強まるのではないかと考えました。コロナ禍で失ったものも多いですが、逆に得られたものを大事にして未来に繋げていけるよう、これからも各会員校の皆様との連携を密にしていきたいと考えています。

広報委員会委員長　守田　美奈子

日本私立看護系大学協会会報　第 47 号
発行者：一般社団法人　日本私立看護系大学協会　https://www.jspcun.jp/
〒101-0041　東京都千代田区神田須田町 1-5　翔和須田町ビル 2 階
TEL 03-6261-2071／FAX 03-6261-2072　E-mail office@jspcun.or.jp
編集責任者：守田美奈子
印刷所　新日本印刷株式会社